

毎日新聞が取り組む小児がん征圧キャンペーン「生きる」が発足から20年の節目を迎えた。NPO法人・日本小児がん研究グループ（JCCG=Japan Children's Cancer Group）の木谷修紀理事長=東京医科歯科大学名誉教授=に、小児がん医療の現状や課題を聞いた。

【下野実雅子】

多くの厚意に支えられ

多くの人の厚意に支えられて地道に活動を続け、20周年を迎えた小児がん征圧キャンペーン「生きる」。恒例行事の一つとなった「サマー・キャンプ」や世界的な指揮者、小澤征爾さんが参加したラジックコンサート、富士山登山などといった多種多様なイベントが開催された。そして、そこにはいつも子どもたちの明るい笑顔があった。20年間のキャンペーンの歩みを写真と年表で振り返る。

1996年9月 がんを克服した渡哲也さんが社長を務める石原プロの協力を得て、埼玉県で小児がんの子どもたちと家族の支援を目的にしたコンサートが開かれる

11月 「小児がん征圧募金第1回贈呈式が行われ、7団体に贈られる

98年8月 初のスマーチキャンプ「スマートムンストン」が神奈川県三浦市で開かれる。以後毎年恒例



2001年11月 世界的な指揮者として高名な小澤征爾さんが趣旨に賛同し、新日本フィルハーモニー交響楽団の協力で東京国際フォーラムでコンサートを開催

04年11月 森山良子さん、加山雄三さんら多数のミュージシャンによるコンサートを東京で開催。皇后陛下が鑑賞

08年2月 横浜市での音楽祭「クラシック・ヨコハマ」で「生きる、若い命を支えるコンサート」を開催。以後毎年恒例



16年7月 20周年記念事業として「富士山再生キャンペーン」に参加し、8回目まで登る



小児がん征圧キャンペーン「生きる」20年の歩み

小児がんの特徴を解説するぐるぐる

小児がんの特徴を解説するぐるぐる



広げたい支援の輪

水谷修紀 東京医科歯科大学大名誉教授



みずたに・しゅうき 1948年京都府生まれ。74年東京大学医学部卒。同年東京医科歯科大学小児科教授。同大学学長を経て現在、名譽教授。日本小児血液学会理事などを歴任。専門は小児白血病。



Japan Children's Cancer Group

(向かい合う四つの顔)①患者②家族③医療関係者④社会をリバーバーの形にデザイン。皆が理解し合い、束ね合いで達成される未来を表現した

小児がんの特徴を解説するぐるぐる

小児がんの特徴を解説するぐるぐる

全国の150病院連携 治療法開発へ前進

付を募っています。共感してお書きください。
JCCGです。

—JCCGはどんな組織で運営されているのでしょうか。

→JCCGは、オールジャパンで運営されています。各病院が連携して組織的な取り組みを行なっています。

—小児がん治療法を開発していくための組織を運営されています。具体的にはどのような取り組みを行なっています。

→JCCGでは、各病院が連携して治療法を開発していきます。小児がんに対する臨床研究も行なっています。

—治療の向上に役立つべき組織を運営されていますね。金銭などどのように貢献していただけますか。

→JCCGは、小児がんの研究費や運営費などを募り、金額は自由で、そつとうまく運営していただけます。

—小児がんは、大人の癌症ではないといふべきですか。

→JCCGは、小児の癌症であり、大人の癌症とは大きく違います。例えば、白血病は、一般的に大人の癌症で、乳癌は、乳癌ではあります。しかし、小児がんは、成長過程で始まることが多いのです。

—一方で、治りやすいといふべきですか。

→JCCGは、小児の癌症が、成長過程で始まることが多いのです。

—今後の展望をお聞かせてください。

→JCCGは、統一して、地域で連携して、研究開発を進め、新しい治療法を確立するため、各病院が連携して、医療機関の連携を促進する制度です。

—小児がんは、小児の癌症であり、成長過程で始まることが多いのです。

→JCCGは、小児がんの治療法を確立するために、多くの研究者が、日々、奮闘してきました。

—JCCGは、小児がんの治療法を確立するため、多くの研究者が、日々、奮闘してきました。



明日につながろう。

人と人がつながって、世界はできている。

だから1人、また1人と笑顔の輪を広げれば、

きっと世界中で元気にできる。

つながっている皆様とともに、明日に向かって。

ひとつひとつ元気の

きっかけづくりをしていきたい

楽天グループです。

